

9月定例会
総括質問
 主な質問と答弁

米村 和彦 議員

**将来を見据えた
本市の財政状況**

問 平成25年度末の本市の市債現在高は約517億円である。市民一人当たりの借金はいくらか。中長期的な財政見通しをどのように捉え、大型事業や計画を進めていくのか。また、来年度の予算編成方針を伺う。

企画政策部長 市民一人当たりの借金は約20万円となっている。

市長 新庁舎建設事業などの借り入れや償還の状況から、平成28年度に市債現在高がピークを迎える。今年度は子供を育てやすい、住みやすい、暮らしやすいま

**大雨・土砂災害の
対応について**

問 今年は西日本を中心に、記録的な豪雨により、広島市をはじめ各地で大きな被害が出ている。水害に備えた救助ボートはどれくらいあるのか。

防災危機管理部長 洪水や

湘南フォーラム

学童保育について

河川の氾濫などの災害時の救出活動や資機材の運搬などのために5艇の救助ボートを所有し、水陸両用バギーを大野出張所に配備している。

問 本市における土砂災害発生時の救助体制はどうなっているのか。

防災危機管理部長 平成26年度末までに土砂災害ハザードマップを作成し、市民に危険箇所を周知する。土砂災害が発生した場合は消防部隊が出勤して被害状況を確認し、被害が大きいときは部隊を増隊し、消防団にも出勤を要請する。本市で対応できない場合は、県内の消防や緊急消防援助隊の出勤を要請する。土砂の撤去作業においては、平塚建設業協会と協定を結び、重機の出勤を求める。

健康・こども部長 学童保育の利用登録者は5年前に比べ300人以上増えている。一時的余裕教室の利用については、教育委員会と連携しながら進めたい。生活スペースについては、各学童クラブの専用区画の面積を、現場確認を含めて早急に把握していきたい。

安心安全な道路整備

問 交差点での重大事故や

府川 正明 議員

**まちづくり構想
「海の道の駅」**

問 これまで「海の道の駅」構想を提案してきたが、地域間競争に打ち勝つためには、茅ヶ崎市と共に既存の観光資源をつなぎ、広域的な観光連携を図る必要があると思う。またこの構想を進めるには、税金を使わず、民間と一緒にまちづくりを進めていくことが地域の活性化につながるかと考えるが、見解を伺いたい。

産業振興部長 現在、観光

連携の一つとして、茅ヶ崎市などと4市3町で湘南地区観光振興協議会を組織し、観光振興に取り組んでいる。「海の道の駅」は、集客や交流人口の拡大、地場産業の振興、地域全体の活性化に資することから、必要性が非常に高いと考えられている。しかし、構想における施設の規模や事業内容などが、地元の水産関連業界や住環境などに及ぼす影響が懸念される。また、土地利用の法的規制や地元住民の合意形成などさまざまな課題を抱えており、提案された内容をそのまま実施

渋滞の解消、歩行者の安全な通行のため、ラウンドアバウト(環状交差点)やゾーン30を導入してはどうか。

交通政策担当部長 ラウンドアバウトは信号機を設置しないため、災害時に停電の影響を受けず、自動車の速度抑制により重大事故の防止に効果がある。課題もあるが本市の道路状況を見

て前向きに検討したい。ゾーン30は指定した地域の走行速度を時速30キロに制限することで生活道路・通学路の安全を確保することを目的としている。平塚警察署管内では3か所が選定されており、順次整備すると聞いている。今後は学校や地域からの要望を踏まえ平塚警察署へ依頼していく。

山原 栄一 議員

**ツインシティ整備は
きめ細かな対応を**

問 土地区画整理組合設立への同意取得が難航しているが、区画整理は地権者の生活設計が見えることが最も重要である。弁護士や税理士が寄り添って地権者一人ひとりのために取り組むことが必要ではないか。

都市整備部長 組合設立準備会に指導していきたい。

相模小学校の開校は

問 区画整理事業の遅延の影響を心配しているが、開校は間に合うのか。

学校教育部長 平成30年4月の開校を目指したい。

新・病院経営計画を

問 市民病院の新棟建設工事が遅れ、グラントオープンが第2期経営計画の終期に間に合わない。新棟の完

成で第2期を区切り、グラントオープンに向けた新たな計画を市民の声も聴いて策定すべきと考える。

病院事業管理者 考えはよく理解した。

中心市街地の活性化

問 天沼地区も含めた中心市街地の活性化の考えは。

都市整備部長 市街地の整備改善などを検討し、中心市街地活性化基本計画を視野に入れて取り組む。

**台風やゲリラ豪雨に
備えたまちづくりを**

問 総合浸水対策基本計画に基づき、岡崎地区の西海地排水路をはじめとした浸水対策を進めているが、県が管理する金目川水系では、時間雨量35ミリの対応しかできていない。これは政治課題である。責任ある答弁をいただきたい。

市長 毎年県知事に話をし

**福祉の充実
「生活保護」**

問 平成26年7月1日に生活保護法の一部が改正され、生活保護の不正受給対策が強化された。このため、本来なら制度を利用できる人が、扶養照会などで家族に迷惑をかけたくないとの理由で、申請をためらうケースも増えてくるのではないかと思う。本市の不正受給者に対する取り組みを伺う。

副市長 法の一部改正に当

たり、事前に厚生労働省から事務処理について通知があった。それによると、生活保護開始の意思を示した人に対して、申請権を侵害しないことはもとより、侵害と疑われる行為も厳に慎むこと、また申請方法についても取り扱いを変更するものではないとのことから、本市では従来と変わらない対応をしている。不正受給は市民の信頼を揺るがす深刻な問題で、厳正な対応が求められる。警察とも連絡会を開催し、情報交換をして、不正受給の防止に取り組んでいる。

たところ、車の台数が多い。将来を見据えてバス路線を通したらどうか。

交通政策担当部長 可能な限りやっていきたい。

**戸籍関係証明書の
不正請求被害告知を**

問 戸籍などの不正取得に関する本人通知制度を早急に実施すべきだ。

市民部長 平成27年4月か

ら実施したい。

ら実施したい。

意見書の提出

9月定例会では、議員提案による次の5件の意見書を可決し、内閣総理大臣のほか関係機関に提出しました。

●地震財特法の延長に関する意見書

地震防災対策強化地域の地方公共団体が実施する地震対策緊急整備事業に対して、国が財政上の特別措置をすとした時限立法、「地震財特法」の有効期限の延長を求めるもの。

●ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書

ウイルス性肝硬変・肝がんにかかる医療費助成制度の創設などを求めるもの。

●手話言語法制定を求める意見書

手話を音声言語と対等な言語として広め、言語として普及、研究するための環境整備を目的とした「手話言語法(仮称)」の制定を求めるもの。

●軽度外傷性脳損傷者に関わる労災認定基準の改正と教育機関等への啓発・周知を求める意見書

軽度外傷性脳損傷のために働くことができない場合、労働者災害補償保険の障害(補償)年金が受給できるよう、労災認定基準の改正などを求めるもの。

●神奈川県が国に対し、いわゆる子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン)の副反応認定者に対する医療支援を行うよう働きかけることを求める意見書

子宮頸がん予防ワクチンを接種した副反応認定者に「国が早急に医療支援を実施すること」を神奈川県に働きかけるよう求めるもの。

問 独自に交通量を調査し

滞しているが、対策を伺う。

土木部長 右折帯のない真土小学校入口交差点は改良に着手している。高砂交差点は引き続き用地交渉に取り組む。片岡交差点は信号制御の改善に努める。

問 独自に交通量を調査し

滞しているが、対策を伺う。

土木部長 右折帯のない真土小学校入口交差点は改良に着手している。高砂交差点は引き続き用地交渉に取り組む。片岡交差点は信号制御の改善に努める。

問 独自に交通量を調査し

滞しているが、対策を伺う。

土木部長 右折帯のない真土小学校入口交差点は改良に着手している。高砂交差点は引き続き用地交渉に取り組む。片岡交差点は信号制御の改善に努める。

問 独自に交通量を調査し

滞しているが、対策を伺う。

土木部長 右折帯のない真土小学校入口交差点は改良に着手している。高砂交差点は引き続き用地交渉に取り組む。片岡交差点は信号制御の改善に努める。

問 独自に交通量を調査し

滞しているが、対策を伺う。

土木部長 右折帯のない真土小学校入口交差点は改良に着手している。高砂交差点は引き続き用地交渉に取り組む。片岡交差点は信号制御の改善に努める。

問 独自に交通量を調査し

滞しているが、対策を伺う。

土木部長 右折帯のない真土小学校入口交差点は改良に着手している。高砂交差点は引き続き用地交渉に取り組む。片岡交差点は信号制御の改善に努める。